

理論言語学講座 夏期集中

●オンライン形式講義のみ

8月8日(土)～10日(日)

「語の意味論」松本曜講師

●対面形式講義+オンライン形式講義

※新型コロナウイルス感染症の状況次第では中止の可能性があります。

その場合は、各講座開始1週間前の金曜日までにご連絡いたします。

※中止になった場合の受講料は全額ご返金いたします。

※対面形式講義の受講者数は三密を避けるために、各講座15名までとします。

8月14日(金)～16日(日)

「言語哲学入門」野矢茂樹講師

8月21日(金)～23日(日)

「日本語文法と一般言語理論」三宅知宏講師

タイムスケジュール予定(講義時間内での変更は有)

1日目	2日目	3日目
10:00-11:00 11:10-12:00	10:00-11:00 11:10-12:00	10:00-11:00 11:10-12:00
13:20-14:20 14:30-15:20	13:20-14:20 14:30-15:20	13:20-14:20 14:30-15:20
15:40-16:40 16:50-17:40	15:40-16:40 16:50-17:40	15:40-16:40 16:50-17:50

講義概要

<p>8月8日 (土)～ 10日(月)</p>	<p>ことばが伝える「意味」の性質に迫る 語の意味論</p> <p style="text-align: right;">松本 曜 (まつもと・よう) 国立国語研究所教授 <b>【意味論】</b></p>	
	<p>講義概要</p>	<p>本講義では、認知意味論と呼ばれる意味観にもとづいて、言語表現（主に単語）の意味について講義します。特にフレーム意味論（百科事典的意味論）と呼ばれる考え方を取り上げます。これは、言葉の意味が、私たちが世界について持っている様々な知識と密接に結びついているという意味理論で、アメリカの言語学者 Charles Fillmore が提唱したものです。この考え方に基づいた英語、日本語の表現意味分析について検討します。さらに、語の意味の拡張の性質や、動詞が参加する構文や複合語に関する制約、さらには反義性などの語と語の意味関係についても取り上げます。</p>
	<p>参考文献</p>	<p>松本曜（編）『認知意味論』（大修館書店）、陳奕廷・松本曜『日本語語彙的複合動詞の意味と体系』（ひつじ書房）</p>
	<p>この科目で前提とされる知識など</p>	<p>言語学の入門程度の知識を前提とします。</p>
	<p>プロフィール</p>	<p>国立国語研究所理論対象研究領域教授 専門は、意味論、及び意味論と形態論、統語論、語用論、一般的認知とのインターフェース。主著に Complex predicates in Japanese (CSLI Publications)、編著に『移動表現の類型論』（くろしお出版）などがある。</p>
<p>8月14日 (金)～ 16日(日)</p>	<p>言葉が何かを意味するとはどういうことなのだろうか 言語哲学入門</p> <p style="text-align: right;">野矢 茂樹 (のや・しげき) 立正大学教授 <b>【言語学特殊講義】</b></p>	
	<p>講義概要</p> <p>言葉について哲学します。そもそも哲学するとはどういうことかを説き起こすところから始めましょう。現代の言語哲学の祖とも言うべき哲学者はフレーゲです。この講義ではまず伝統的考え方（意味の観念説）を示して、その伝統的考え方への批判を踏まえて、フレーゲの考え方を見ていきます。そしてそこからさらに、フレーゲ的な考え方を越える考え方を見ていきます。とても煩瑣な議論が展開される現代の言語哲学ですが、この講義ではあまり細かく複雑な議論には立ち入りません。そのかわり、言葉を哲学するときの考え方の根っこに触れることができるのではないのでしょうか。以下、目次を示しておきます。</p> <p>はじめに</p> <p>第Ⅰ部 フレーゲ以前 1 意味の指示対象説 2 「犬」の意味は何か 3 意味の観念説 4 観念説を批判する</p> <p>第Ⅱ部 フレーゲ的な考え方 5 「犬」を「xは犬だ」という関数として捉え</p>	

		<p>る 6 文脈原理 7 文脈原理と合成原理 8 構文論的構造 9 外延と内包 10 指示と述定</p> <p>第Ⅲ部 フレーゲ以後 11 古典的概念観と新しい概念観 12 記号的言語観とコミュニケーション的言語観 13 言語行為論 14 文の意味と発話の意味 15 発話の意味を決めるのは意図か慣習か? 16 会話の理論 — 会話の含み — 17 記号的言語観とコミュニケーション的言語観を統合する 18 言語変化と隠喩</p> <p>b. 予備知識は必要ありません。</p> <p>c. 専門は哲学。</p> <p>e. 言葉が何かを意味するとはどういうことなのだろうか</p>
	テキスト・参考文献	適宜プリントを配布します。
	この課目で前提とされる知識など	予備知識は必要ありません。
	プロフィール	<p>立正大学哲学科教授。専門は哲学。</p> <p>東京大学大学院理学系研究科科学基礎論専門課程博士課程単位取得退学。北海道大学助教授、東京大学大学院総合文化研究科教授をへて、現在立正大学教授。</p> <p>著作に『増補版 大人のための国語ゼミ』（筑摩書房）、『言語学の教室』（西村義樹と共著、中公新書）、『哲学の謎』（講談社現代文庫）、『はじめて考えるときのように』（PHP文庫）、『ここにはないもの』（中公文庫）、『心という難問 空間・身体・意味』（講談社）など。</p>
8月21日 (金)～ 8月23日 (日)	日本語の具体的な言語事実の観察，記述から，理論的な説明へ 日本語文法と一般言語理論	<p>三宅 知宏 (みやけ・ともひろ)</p> <p>大阪大学教授</p> <p><b>【言語学特殊講義】</b></p>
	講義概要	<p>本講義は、普遍的な一般言語理論を視野に入れながら、個別言語としての日本語について、特に「文法」（形態論，統語論，意味論，語用論との接点を含む）の分野を中心に議論します。今年度は、日本語において「文法構文」を形成していると考えられる言語現象を複数，観察することを通して、日本語の文法の基礎的事項とその理論的展開について検討する予定です。なお、本講義は日本語の「文法」に関して、①一般言語理論研究を行う上での基礎的な知識を得たい方，②専門的な日本語研究を進める上での知識を得たい方，③日本語教育を行う上での知識を得たい方，④日本語（言語）に知的興味がある方，を対象としています。</p>
	テキスト・参考文献	適宜プリントを配布します。
	この課目で前提とされ	本講義は、受講にあたっての特別な知識は必要としません。一昨年度，昨年度に引き続きの開講になりますが、講義の内容は異なりますので、今年度はじめての受講，

	る知識など	一昨年度／昨年度から連続の受講のいずれでも，問題はありません。
	プロフィール	<p>日本語学・言語学  大阪大学大学院文学研究科 教授</p> <p>1997年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程退学。博士（文学）。</p> <p>『日本語研究のインターフェイス』（くろしお出版 2011），『日本語と他言語』（神奈川新聞社 2007），『語彙論的統語論の新展開』（共編著 くろしお出版 2017）等。</p>